
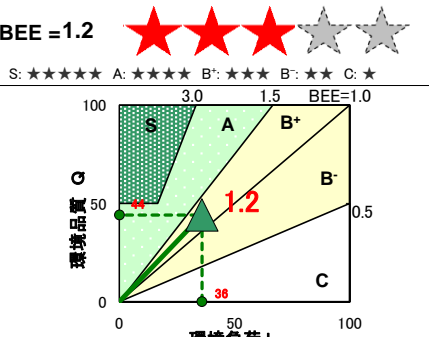
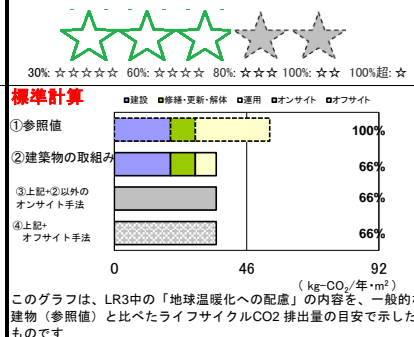
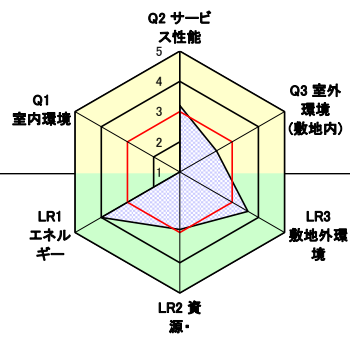
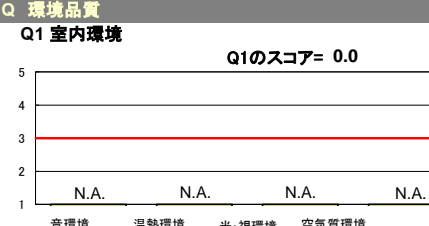
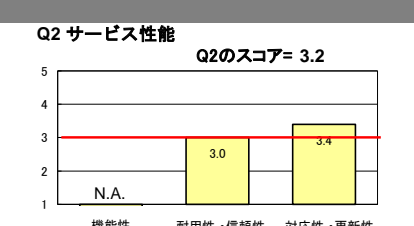
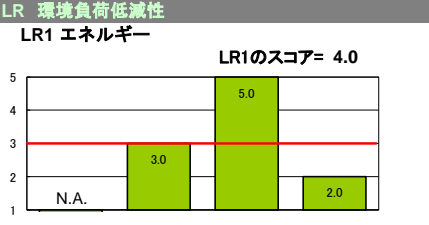
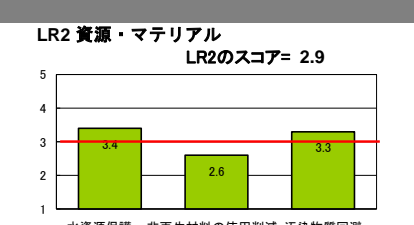
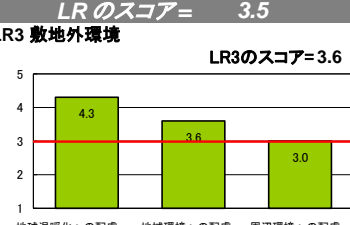


1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	(仮称)鶴盛工業株式会社神奈川工場新築工事	階数	地上2F		
建設地	綾瀬市吉岡東二丁目148番1、3及び4	構造	S造		
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	68人		
地域区分	6地域	年間使用時間	3,600時間/年(想定値)		
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2019年12月 予定	評価の実施日	2018年10月31日		
敷地面積	4,053㎡	作成者	(株)エネ・グリーン		
建築面積	2,546㎡	確認日	2018年11月2日		
延床面積	4,201㎡	確認者	(株)エネ・グリーン		

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p><b>BEE = 1.2</b></p> <p>★ ★ ★ ★ ★</p>  <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p><b>標準計算</b></p> <p>30% ★★★★★ 60% ★★★★★ 80% ★★★★★ 100% ★★★★★ 100%超: ★</p>  <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p>  <p>Q1 室内環境 Q2 サービス性能 Q3 室外環境(敷地内) LR1 エネルギー LR2 資源・マテリアル LR3 敷地外環境</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p><b>Q 環境品質</b></p> <p>Qのスコア = 2.7</p>		
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>Q1のスコア = 0.0</p>  <p>音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>Q2のスコア = 3.2</p>  <p>機能性 耐用性・信頼性 対応性・更新性</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>Q3のスコア = 2.4</p>  <p>生物環境 まちなみ・景観 地域性・アメニティ</p>
<p><b>LR 環境負荷低減性</b></p> <p>LRのスコア = 3.5</p>		
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>LR1のスコア = 4.0</p>  <p>建物外皮の熱負荷 自然エネルギー 設備システム効率化効率的運用</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>LR2のスコア = 2.9</p>  <p>水資源保護 非再生材料の使用削減 汚染物質回避</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>LR3のスコア = 3.6</p>  <p>地球温暖化への配慮 地域環境への配慮 周辺環境への配慮</p>

3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b></p> <p>建物内だけでなく敷地までも考慮し環境に配慮をした設計となっている。建物内では利用者が利便性を得られるよう室内環境に配慮しサービス性能があるようになっている。敷地内には多くの自生種の樹木を植生しており日陰の形成だけでなくまちなみに調和できるような配慮が成されている。</p>		<p><b>その他</b></p>
<p><b>Q1 室内環境</b></p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>給排水管では配管の更新必要間隔を考慮し、上位3種はB以上のものを採用。内装は防汚性の高い建材を選び、維持管理に配慮した計画となっている。</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>緑地指数20%を超える建物緑地化をおこなっており、自生種の保全にも貢献している。また敷地全体に樹木を植生し日陰の形成、地表付近の気温上昇対策に努めている。建物の緑地化によりまちなみの調和を考慮した建物になっている。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>設備システムの効率化による環境への配慮がなされている。(BEI値0.28)</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>多くの人が利用する箇所に自動水栓を設置することにより、無駄な排水をなくすよう節水に努めている。建設後のリサイクル性を考慮し再利用ができる建材を使用している。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>電気温水器の設置により、敷地内からの大気汚染防止に努めている。建物利用者のため、適切な量の駐車場、駐輪場を確保しており利便性に配慮している。事前に地域の温熱環境状況を把握し、風を回復させるような設計になっている。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃業に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される